グリーンサークル
19号

ツユクサ

グリーンサークルは、多摩市の「水とみどり」に深く関わりのある方々や環境活動、情報をご紹介します。皆さまの自然に対する関心が、明日のみどりに繋がります。この紙面が多摩のみどりについて考えるきっかけとなれば幸いです。

クローズアップ

元グリーンライブセンター花と緑の相談員

森　正

今振り返って考えると、グリーンライブセンターで過ごした期間が最も楽しく、また充実していたのではないかと思います。

昭和３７年４月に、東京都建設局（井之頭自然文化園）に配属となり、その後都庁から世田谷区、小平霊園、環境保全局、日比谷公園、上野動物園と移動し、最後が上野公園緑の相談所でした。

多摩市立グリーンライブセンター

グリーンライブセンターには平成１２年の４月からお世話になり、庭木の手入れ、バラの手入れ、ウメの剪定などの講師と相談員の業務にも従事し、７０歳で平成１７年３月に退職いたしました。しかし、その後も講座の延長、相談員の休日のカバーなどで、結局平成２３年３月まで勤めたことになります。

相談業務に携わった期間としては、上野公園緑の相談所が４年、神代植物公園緑の相談所が５年、これにグリーンライブセンターでの業務を加えると大変長い年月になります。

その長い相談業務のなかで、色んな内容の相談と、たくさんの人々との出会いが思い出され、大変貴重な経験をさせていただいたと感謝しております。

相談を受けるに当たって、特に考えておりますことは、どんな相談の場合でも、植物の名前や育て方などの説明だけではなく、機会があればできるだけ自然環境の現実についてもお伝えすることが、私達相談員の役割として大切なことではないかと思います。

また、講座においても「こうすれば良い」との説明のみではなく、なぜ？どうして？についても説明するよう心掛けることが大切ではないかと思います。

植物の育て方についても、定説だけでは十分ではなく、そのものが置かれている環境や諸条件による違いも、説明できればより優れた対応ではないかと思います。このようなことから、理想的な相談員になることは非常に困難なことであると考えます。

私は現在６年ぐらいになりますが、ガーデニング倶楽部をおこし、ボランティアとして新都市開発株式会社が担当する花壇の管理を１０名ばかりの人々と行っています。

場所は多摩センター駅とパルテノンの間のクス並木の植え込みの一部にあります。仕事の内容としては植え替えと草花の管理です。

これからも地域の皆さんの少しでもお役に立つことができれば幸いに思います。

パルテノン多摩大通り

ボランティアをしている花壇

森　正

以前、多摩市立グリーンライブセンターをはじめ、数々の場所で花と緑の相談員として活躍された。

現在はパルテノン多摩大通りの花壇のボランティア活動に励んでいる。

～活動団体を訪ねて～

どんぐり山

どんぐり山を守る会　代表　内城　葉子

どんぐり山を守る会の経緯

殺風景な団地群の中に、孤島のような緑がありました。そこは「多摩市落合第五児童公園」、四千坪の小さな山を利用した公園でした。そこを調べると「様々な苗木を密に植えた造成地」「放置された雑木林」「芝生とつつじ等の植栽地」と、大きく分けると３つのタイプでした。更に雑木林を調べると雑木林特有の林床植物が生き延びていることがわかりました。タマノカンアオイ、シュンラン、キンラン、ギンラン、ワレモコウ等など株数は少ないものの種類数は豊富でした。ただ、市が委託している業者の管理のやり方では草刈りの方法や時期の問題があり、特に晩夏から秋にかけての植物に影響が出ると考えられこのままでは植物相が減って行くことが心配されました。

そこで市役所の公園課を訪ね事情を話たところ、住民で管理する事に賛成してくれ「芝生とツツジ等の植栽地」を除いた部分の手入れをすることが許可されました。

１回目の作業は翌年 1987 年１月２１日、密生するアズマネザサを刈ることから始めました。８名で４時間の格闘。自前の鎌は刈り方の拙さもあってボロボロに欠け、疲れきって終わりました。この頃はまだボランティア連絡会も森木会も無かったので公園課から「公園愛護会」に入ることを勧められ、それには名称が必要になり近所の子供達が呼んでいた「どんぐり山」を使わせていただき「どんぐり山を守る会」と決定しました。

それから月２回の活動と活動日以外にも行ける時は頻繁に通い、草刈りや伐採、枝払い、植栽をし,伐った木は茸のほだ木にしたりドラム缶で炭を焼いたり、（公園課が作ってくれました）できるだけ林内で活用することを心がけてきました。

1983 年公園造成中

1989 年 2 年目の 5 月

みどりの川の手入れも

1999 年、中央公園の一部、「１０ーA 地区」とされている所の手入れも引き受けることになりました。ほとんど手入れされること無く放置状態だったところで、落葉広葉樹の多くが立ち枯れているのに驚かされました。竹に囲まれかろうじて息をしているような木々達を何とか救いたいと思いました。皆で話し合い、まずは竹を伐採するところから始め、常緑樹、落葉樹の整理へと計画をたてました。

名称も「１０ーA 地区」ではなく「どんぐり山」が泉となり、そこから緑の水が流れ始めたというところから「みどりの川」と名づけました。

・・・春雨やどんぐり山が動き出す・・・

活動日：毎月第 1、第 3 日曜日　9:30～12:00
入会随時受付中
お問い合わせはグリーンライブセンターまで（042-375－8716）

今はやらなくなった炭焼きの風景

ドラム缶に詰める

砂場に埋める

焼きあがり

どんぐり山の地図

みどりの川の地図

～活動団体を訪ねて～

よこやまの道

よこやまの道班 班長　池田　和夫

諏訪ヶ岳の魔法

諏訪ヶ岳。名前がいい。一体何千メートルだろう、日本百名山にあったか知らん？と探してもない。実は標高 144.3 メートル、多摩市最高峰でさえ、ない。

それでも人に愛されることでは人（山？）後に落ちない。諏訪ヶ岳がある「よこやまの道」は、2004 年に「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」に選ばれ、遠くから地図を片手に訪れる人たちが常に行き交う。この道は変化に富んでいるが、東西どちらからやって来ても、この山に入った瞬間、落葉広葉樹の明るく高い樹々にやさしく包み込まれるような印象を受ける。訪れる人たちは口々に「いいヤマだなあ！」「きれい。」と声を漏らす。

里山が手入れされなくなって５０年、樹々は高くなり遊歩道はカテドラルの回廊を行くかのような侵し難さを帯びて来る一方、老木化のため強風のたびに倒木、枝折れが心配され点検・後処理が欠かせない。

太古の日本では、落葉広葉樹は日本の山野を覆っていた（そうだ）。ここ数千年の気候変動で、放っておけば常緑樹や竹林に駆逐されてしまう。しかし落葉広葉樹林のもつ明るさ、暖かさはそれらの優勢植生では得難いもので、加えて林床の「スプリング・エフェメラル」を始めとした豊かな低層植生は植物好きにはたまらないに違いない。

５月初旬、まだヤブ蚊も出ず爽やかな風が吹き抜ける諏訪ヶ岳の、短く刈ったアズマネザサの中に寝転んで、天蓋の若葉を見上げ、太古の昔に思いを馳せる。我々がささやかな作業で守ろうとしている雑木林は、江戸時代あたりからの里山の末どころか、１万年前に氷河期が終わり、落葉広葉樹が北上して縄文人が利用し始めて以来の遺産であること、林下の草花たちも避難地としてここで生き延びて来たことなど。掛けた巣箱の近くを飛び交う小鳥たちも過去からタイムスリップして来たかのようだ。

諏訪ヶ岳には狭いながらも山頂広場がある。お正月に山始めの神事のご神木となるヤマザクラの大木を主神とし、コナラ・クヌギの神々に囲まれたここは、林間演劇の舞台として検討されてもよいオーラを持っている。日が暮れて、夏ならばホトトギス、冬ならフクロウの声を序曲に、仮面の男女が無言で登場する。演目は当然、縄文人の糧を得る戦いと神々との交流だ。妖艶なヒロインには、オオミズアオの衣装が似合うかも知れない。

一方で我々はここで夏の盛りに、かなり没幻想的な「暑気払い」をおこなうだけで、男たちの弾けるような笑い声や女性たちの笑顔が神々への供物になっているかどうか。

…ということで、普通に書いても変わり映えが？と思い、やや気取り過ぎのご紹介。諸人参加歓迎。

よこやまの道班
活動日時　第２、第４土曜日 9:00～12:00
集合場所　エコプラザ多摩（諏訪 6-3-2）
ホームページ　「よこやまの道班」で検索

枯れ木の伐倒

多摩市　みどりのかわら版　グリーンライブセンター内輪話

グリーンライブセンター　伊藤　英行

皆さんこんにちは。私は、グリーンライブセンターに昨年の４月から勤務しています市の再任用職員の伊藤と申します。いつも、グリーンボランティア連絡会のみなさんや森木会のみなさんには、事務室でお会いしたり、運営会議の際にお目にかかったりしております。

私の仕事の内容が、前任の倉澤さんと同様に施設の管理業務が中心で、団体さんの活動には、直接携わっておりませんので、今一親しくお話する機会が少ないと思いますが、グリーンライブセンターにお越しの際には是非お声をかけてください。性格は天真爛漫で、年甲斐もなく何でも興味を持つ人間です。よろしく！

さて今回、前の席に座っている高澤さんから「多摩市のみどりのかわら版」の原稿作成の依頼がありました。私なりに考え「多摩市みどりのかわら版」の誕生秘話というか、事務室内の内輪話を題材にします。

もともとこのコーナーは、グリーンボランティア連絡会の編集会議で多摩市のみどりについての「行政情報」を発信する目的で設けたと伺っております。でもなかなかいい情報はたくさんある訳でもないし、内容が硬くてつまらないこともあるかな！ということで、少し柔らかな内容も Ok という雰囲気を出した題名をつけようと、担当の高澤さんと私とで話し合いをはじめました。

そこで第１案として

（伊藤）みどりの行政のあり方を捉えて、主役は市民、そのお手伝いが市の職員ということで、「一心多助のかわら版」ではどうかと提案しました。

（高澤）江戸言葉で良いけれど「一心多助」を知らないのではないかということで、ニュアンスを残して保留になりました。

続いて第２案。

（伊藤）行政の裏話（失敗談とか体験談）を話す機会ということで、「ぼくたちの失敗」とか「わたし（江夏）の２１球」とかはどうかな？

（高澤）何かどこかのドラマの題のよう。市の職員が裏話ばかりはどうかと思う…。

第３案！

（伊藤）めずらしい話、貴重な情報ということで、「キンラン、ギンランのささやき」は？

（高澤）……。

このようなやり取りが数日続き、はじめの案の「かわら版」を採用し、「みどりのかわら版」と命名されることになりました。

グリーンライブセンター　事務室

ここグリーンライブセンターに来られるボランティアのみなさんは、気持ちに余裕のある中でとても熱心に活動されます。また来館される市民の方々も穏やかで清々しいです。これはライブセンターの植物の効用かな？みどりは間接的だけど「人生を励ます機能」があるように思えます。どうぞ、市民のみなさん！多摩市グリーンボランティア連絡会・恵泉女学園大学・多摩市の三者で協働運営している「みどり溢れるグリーンライブセンター」で人生を楽しんでください。

それから「みどりのかわら版」を担当する市の職員の皆さんは、僭越ですけど私の笑例を参考に、テーマや内容を検討してください。もっとやわらかく、ユーモアをいれて、グリーンライブセンターに遊びに来たくなるように！

そんなことで、今回は「このコーナー」の私のメッセージを書きました。お断りしておきますが、仕事中はいつも冗談ばかり言っている訳ではなく真面目に勤務しております。今後とも、多摩市のみどりと連絡会・森木会のみなさんの活動は、きってもきれない関係です。グリーンライブセンターもその中の一部（中心？）として、ますます意味を持ってくると思います。これからも、どうぞよろしくお願いします。今回の機会、ありがとうございました。

表紙の絵

「ツユクサ」（ツユクサ科）

朝咲いてお昼頃にはしぼんでしまいます。
青い花びらが二枚、そして小さな白い花びらがもう一枚あります。

絵・内城　葉子

＜**プロフィール**＞1949 年東京生まれ。
1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGoldMedal 受賞など
＜**所属**＞日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表
＜**著書**＞「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。

雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴です。

編集後記

青々とした葉が大きくそよぐ季節となりました。皆さんも色々な植物の楽しみ方をされていることだと思います。1つ、私からも楽しみ方を、ご紹介したいと思います。

昔は縄になるからと重宝され、現代では積極的に駆除する人もいる「シュロ」ですが、シュロの小葉を編んで折り込んで…バッタに変身です！葉の自然な素材がバッタをいきいきさせてくれます。皆さんも自然の恵みを色々楽しんでみてくださいね。（高澤　愛）

シュロで作ったバッタ

多摩市グリーンボランティア通信　グリーンサークル 19 号
発行日:2015 年 7 月 1 日
編集:多摩市グリーンボランティア連絡会　事務局
発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会　事務局
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園
多摩市立グリーンライブセンター内
電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087
ホームページ http://www.keisen.ac.jp/tglc/